

2017 年度 帰国隊員/青年支援プロジェクト 実施報告書		提出日 2018 年 9 月 5 日
氏名： 美藤 ゆかり	実施国：ラオス人民民主共和国	調査研究
活動名称	Quality and use of measurements for antenatal care in Vientiane Capital, Lao PDR ラオス人民民主共和国ビエンチャン特別市の郡病院における妊婦健診の質とその結果の活用	
実施期間	2017 年 7 月 1 日 ~ 2018 年 8 月 27 日	
(1) 申請した動機		
<p>私は協力隊の時にラオスの郡病院において、適切な妊婦健診や指導ができていない場面を多く目にした。帰国後、それらを改善するにはどのようにすればよいかということに興味を持ち、大学院に進学した。ラオスは妊産婦死亡率が東南アジアで 2 番目に高く、最も多い原因は出血、次いで敗血症、遷延分娩、子癇である。WHO(2016 年)の妊婦健診における勧告の中で血圧、蛋白尿および体重を測定することはもはや当たり前のケアの一部であるとしている。しかしラオスの農村部における研究では、サービスの質が低いことや健診データには正確性や一貫性が欠けていることを報告している。一方ビエンチャン特別市における妊婦健診の質は私たちの知る限り評価されていない。そこでビエンチャン特別市の郡病院における妊婦健診の血圧、尿検査、体重計測の質を評価し、医療者がその結果を活用して妊婦に適切な指導を行っているか、妊婦がその指導を理解しているかを評価し、将来的に産科合併症の予防に役立たいと考え、本プロジェクトに申請した。</p>		
(2) 活動内容概要		
<p>研究目的：</p> <p>①妊婦健診において母体の血圧、蛋白尿、体重を測定しているか、記録しているか、医療者が測定したそれらの計測値とデータコレクターが測定した値を比較し、その質を評価する。</p> <p>②妊婦が血圧や体重増加についてのアドバイスを受けているかどうか、妊婦の血圧、蛋白尿、体重増加の知識について評価する。</p> <p>③医療者の血圧、蛋白尿、体重増加についての知識と、妊婦に対して血圧、蛋白尿、体重増加に関するアドバイスを行っているかどうかを評価する。</p> <p>本調査実施期間・地域： 2018 年 6 月 19 日～8 月 27 日 ラオス、首都ビエンチャン特別市の全 9 郡病院</p> <p>対象：</p> <p>①調査日に妊婦健診に訪れた、満 18 歳以上でラオス語での会話が可能であり、研究同意の得られた妊婦。</p> <p>②郡病院の母子保健科に所属し、研究同意の得られた医療者。</p> <p>調査方法：</p> <p>①ラオス人データコレクターが妊婦に対し、調査票を用いて産科特性や血圧、蛋白尿、体重の知識や保健指導に関する半構造化面接を行った。また、母子手帳から妊娠情報、これまでの健診情報の記録を入手した。妊婦の血圧、蛋白尿、体重をデータコレクターが測定した。</p> <p>②母子保健科の医療者に対し、調査票を用いて血圧、蛋白尿、体重の知識や保健指導に関する半構造化面接を行った。</p> <p>③各郡病院の年間分娩数、年間妊婦健診者数などの病院情報を入手した。④研究代表者が妊婦健診を各郡病院 10 例程度観察した。</p>		

### (3) 活動の成果・苦勞した点・反省点等

活動の成果：妊婦 440 名、医療者 73 名、妊婦健診を 88 回観察することができた。

苦勞した点：データコレクターはラオス語しか話せないラオス人であり、3 名は未経験の医師であったが、1 名は未経験の薬剤師であった。そのため、彼らの知識や質問方法技術に差があったため、ラオス語で説明・指導し、データコレクターの質を高めることに対して苦勞した。

他に文化の異なるラオス人データコレクターを雇うことは難しかった。労働規則や彼らのモチベーションを高めるため、調査以外のことにも気を配りながら活動を行った。

反省点：ラオスの倫理審査の許可やデータコレクター探しなどに時間がかかり、調査開始時期が大幅に遅れてしまった。もっと早くラオスに渡航し、現地での交渉を早くから行うべきであった。

### (4) 今後のプラン

まずは妊婦の調査部分のみを分析し、2019 年 1 月 11 日までに修士論文を完成させ、論文を雑誌投稿する計画である。その後、医療者調査票と非参与観察のデータをラオスの共同研究施設 (Mather and Child Health Center) と共に分析を行い、論文を執筆し、雑誌投稿する予定である。また調査結果は毎年ラオスで開催されている National Health Research Forum で発表したいと考えている。